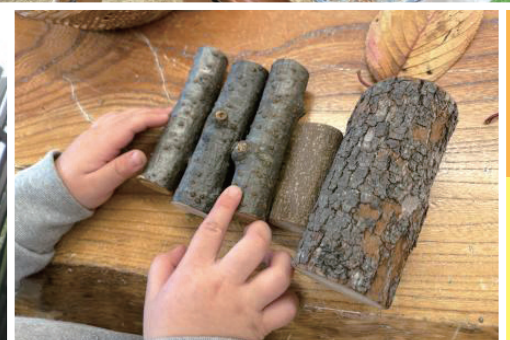


乳幼児期からの深い学びを支える遊びの展開と支援：

子どもと保育者の 協働探究過程の検討

No. 96



はじめに：私たちの問い

これまで：私たちの研究会はこれまで「挑戦的意欲」「幼児期の深い学び」「探究過程の分析」「環境素材とメディアの分析」をキーワードに研究を展開してきました。
そして「ワクワクは心のエンジン」という探究のキーワードも、この研究会から広くいろいろな所に広がってきています。



今回：研究テーマを「乳幼児期からの深い学びを支える遊びの展開と支援：子どもと保育者の協働探究過程の検討」としています。
つまり**子どもの探究の展開過程**に保育者もまた**協働探究**すること、そこで大事にしたいことは何かを問うことが、研究の主題です。

展開過程という、スムーズに探究が進むイメージがうまれるかもしれません。興味関心や気づきから始まる探究も、活動の中で葛藤が生じたり、飽きたり停滞したり、終わったとみえることが偶然に子どもたち自らの手で思いがけない時につながっていくこともあります。その事実をみつめて研究を進めています。

また協働探究も、誰と誰がどのように協働するのか、その探究の契機もまた様々です。射程を広げ、長い目で園の事実をみていくことを大事にした研究を大切にしています。

研究デザイン

2年間の事例研究をベースに、最近の保育での協働探究に関する研究も踏まえて成果をまとめています。事例の報告だけではなく、研究会メンバー間での議論により、事例の見方を深める中で、この報告のリーフレットや報告書が作成されています。

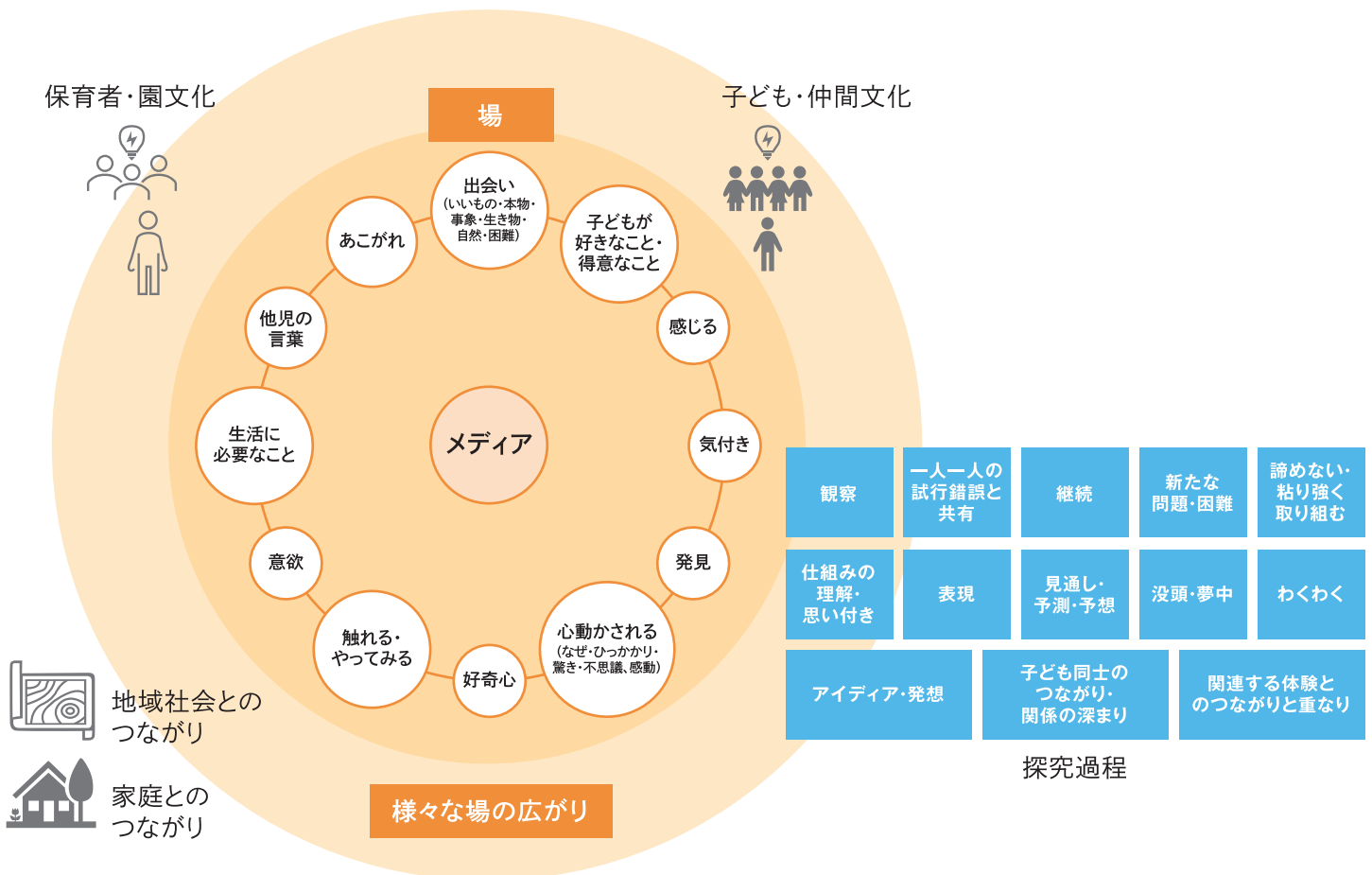
この研究会では、環境としての、素材と同時にその素材や活動を深める仲立ちをするもの(道具)をメディアと呼び、探究の展開過程でのそのメディアの役割も大事にしています。

メディアには、ICTなどのデジタル学習基盤だけではなく、園の中のさまざまな道具や絵本等、活動をつなぐものをメディアとして意識して記述する方法を試みました。



これまでの研究より

子どもの探究過程に着目し、探究とメディアとの関連、保育者の関わりや環境の構成と再構成のポイント、園文化との関連について検討を重ねてきました。本研究では子どもと保育者の協働探究過程に関する事例を通して、共通点が見出されました。



遊びと生活の中の探究は、夢中・没頭と停滞を行きつ戻りつしながらつながっていく

- 安心・安定した環境の中で心ゆくまで遊ぶ経験から、「なんだろう?」、「やってみよう!」のわくわくへ。
- なんでもやってみていい、存分に試し、わちゃわちゃ・ごちゃごちゃ(messy time)を通した面白さを経験する。
- 興味関心を共にする仲間とかわす言葉は、「すごい!」「どうすればいいの?」から、経験と重ね合わせて「こうすればできるんじゃない」「こうしたほうがいいのかも」とアイデア・目的を共有し、実現に向けていく。
- 保育者もまた子どもの姿を見取り、予想しながら環境を丁寧に構成・再構成するプロセスの中で試行錯誤する。
- 保育者は子どもの声を聞き取り、子どもと共に様々な素材・材料、道具、遊具、を準備し、場をデザインする。子どもと共に“今・ここ”を超えた世界と現実の園の生活を楽しみ、なりきり、入り込み、「もっとこうしたい」を実現しながら遊び込む。
- 子どもは保育者を超えた姿をみせる。保育者の「こうなるかもしれない」「こうなってほしい」という思いと、子どもの実態と丁寧に向き合い、子どもの願いの実現のために「こういうことかな?」と子どもと共に協働探究する。
- 保育者は子どもの声や想いに寄り添い、応えていく。子ども同士の声をつないでいく。そして研ぎ澄ました“問い”から対話へと導いていく。
- よく知っているように思える事柄に新たに出会い、“私たちにとっての意味”を問い直していく。問い直していくことで大人も子どもも共に探究の世界に入っていく。
- 身近な環境に気付いていく。モノ・ヒト・コト・空間・時間をつなぐメディアを捉えなおすりサーチを通して、出会いを広げ深めていく。
- 写真や動画などを用いたドキュメンテーションを通して、保育者と子どもが表現者になっていく。可視化されたものを共有することで、振り返りと創意工夫が引き出される。
- 園という場は、人、体験、場所、空間、時間、価値観がつながりあう場となる。そのつながりは季節を超えて、保護者や地域と共に、広がり深まっていく。
- 探究の道筋は子どもと保育者がゆっくりじっくり歩むことで現れる、エマージェント(創発的)なプロセス。

【4月・5月(3歳児)入園当初の園庭】

きっかけ

お気に入りの玩具で
心ゆくまで遊ぶ



保育者は、子どもの “わくわく”に寄り添う

2～3歳児の保育では、毎日遊ぶ場所で
安心感を持ち、「心ゆくまで遊びを楽し
める環境」を通して、繰り返し遊ぶこと
を楽しみ、その子なりに『探究』する姿
がみられる



A児の気付き

ほかにも 走るところ 発見

- 別の日、保育室前のウッドデッキ下がわずかに坂道になっていることに気付いたA児。
- ダンプカーを持った手を離すと、ゆっくりと走り出すダンプカーを見て、手をたたき喜び、何度もそれを繰り返す。
- その姿に、気付いた園長先生が、段ボールを持ってきて、小さな坂道を作る。
- 即席の坂道でダンプカーを走らせ、遊ぶ。
- 園長先生が段ボールを貼るために持ってきた養生テープを手にとり、転がす。
- 直観的に「丸いものは転がる」と思ったのだろうか？



教師の“やってみたい”を一緒に楽しむ

- 牛乳パックを切って、段々のコースを作る。
保育者が試行錯誤していると、ウレタン積木を持ってくる子ども。教師が「もっと高くしたい」とつぶやくと、またウレタン積木を持ってくる。すぐ、積み木から牛乳パックがずれ落ちてしまうと、「テープで止めれば？」というアドバイスをくれる子ども。
- 保育者の“やってみたい”思いに手を貸してくれている。うまくコースがつながり、保育者が喜ぶと、いつのまにか3歳児なりに「ここからやってみよう」「ここまでしかいかない！」など、考えている姿が見られた。
- 透明トンネルもつなげ、トンネルから牛乳パックにボタンとガチャカップセルが落ちると飛び跳ねて遊ぶ。
出来上がった場所にやって来て動きを真似ている子どもも多いが、うまくいかないことを面白がっている子どももいた。
- 『なんでもやってみていいんだ』と遊びの面白さを知るきっかけになっていたら嬉しい。



素材との出会いの場～子どもの気付きとともに～

【5歳6月】草花を使った色水づくりから、今年も色水研究所が始まった



この時期に合わせて植えてあったハーブやシソを使い、色水を作っている子どもたち。お茶に見立てて遊んでいる。
水の量を加減して濃さに着目するようになり、「すごい濃いのができた！」と満足気である。

「手もいいにおいがする」
「薬？」「お茶？」
「もっといいにおいがするよ」
「お料理に使えるんじゃない？」
「抹茶フラベチーノとか？」

★「だったら生クリームがいるんじゃない？」

「何これ？」「すごい！」
「どうやって作るの？」
「魔法の粉から作ったんだよ」
「やってみたい！」

粉を入れて、水を入れて
かき混ぜてみたけれど…なかなかクリームにならない
「なんで先生のはそんなに固いんだろう」という子どもの問いに答え、共に考える
「なんでだろうね」
「〇〇くんはどうかかな？」
「どうやっているんだろうね」

◆「魔法の粉がもっとあるといいんだけど」

★色水研究所+泡クリーム作りができるようにしておくと、色水づくりだけでなく、その先へと子どもたちのイメージが広がるかもしれない

「これどう？生クリームみたいじゃない？」と石鹸で作った泡クリームを提示してみた

泡クリームを作っている子どもたちも、作ったクリームを使って見立てられるとイメージが広がるかな？

◆クリームの固さは水の量や石鹸の量に関わっていると気付いてきたのかもしれない

自分たちで加減できるように、固形石鹸とおろし器、スポイト、計量カップを出してみる



「とろとろ？ちょっと触らせて」
友達と自分のクリームを触ったり混ぜたりしながら比較している



先生のクリームみたいにしたいな
魔法の粉と水、かき混ぜればできるはず・・・お母さんはどうやってまぜていたよ

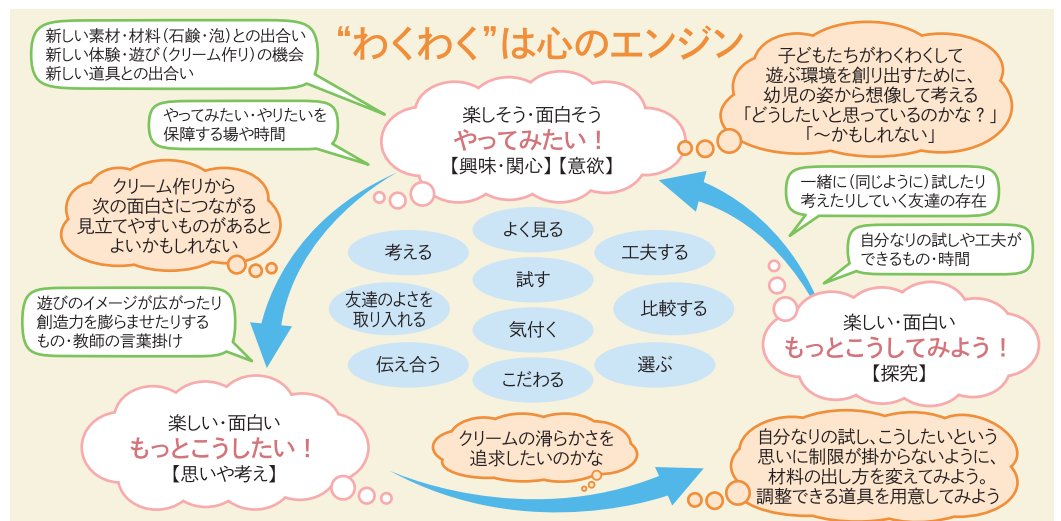


ボールを傾けて混ぜてみる
手にしているのはゴムベラ、何が適した道具なのかわからないので、まずは使ってみて試している
「ホテルの生クリームってこんな感じだよな」
「これって、つのがたつ」っていうんですよ
「私たち、2人でやってみよう」
「私が削って、Aちゃんがクリームにするの」
「私たち、2人でやったから結構いい感じ！」



明日までとっておこう

どうなったかな？
1日たった泡クリームは・・・
「ねばねば」
2日たった泡クリームは・・・
「くしゅくしゅだ」



子どもの遊びを支えるために～みんなで考えた遊びが一番面白い～

【5歳5月】「ゲーム屋さんをやりたい」、子どもの声を聞き取り、イメージを共有した

- 【保育者の思い】
- 段ボールがいろいろかな
 - 磁石でくっつけるのかな
 - ひっかけるのかな
 - レバーを握ってつかむ、マジックハンドがいろいろかな

他にも子どもから様々なアイデアが出てきた

- ガチャポン
- 車
- ビー玉転がし

クレーンゲームを作りたい①



クレーンゲームを作りたい②

子どもたちはそれぞれイメージを持って進めていく



- 棒を作る
- 段ボールを2つ使って、段ボールの中にさらに段ボールを入れ込んで段差を作り、上部に切り込みを入れる
- 棒でかきだし、下に落とす仕組み
- 受け口からグッズを取り出す

クレーンゲームを作りたい③

本物みたいに作りたい、景品も作りたいという子どもの思いを丁寧に受け止める



- コインの入入口
- 操作レバー(右・左)
- 取り出し口
- コイン
- 雪(おめでとう)

ガチャポン・車・ビー玉転がし



異年齢の友達が遊びに来て、繰り返し楽しむ姿がみられた。車がつぶれてしまうが、すぐ修理している「遠くまでよく走る車をつくりたい」



「小さなお友達を呼ぼう」招待状が届けられた

【保育者の思い】

- 壊れない車、材料は？
- スロープの長さ？
- ビー玉転がし、長く転がすにはBブロックが必要
- ガチャポンは玉の大きさに留意し、安全で安心して楽しめるように

私のお気に入りを作りたい(グッズ)



- ハサミ
- カレーライス
- 女の子「寝てる」「起きてる」



様々な遊びの中で

「クレーンゲームが一番面白いんだよ」
「だってみんなで考えたから」という声が出た
遊びに愛着を持ち、達成感や
自己有能感を感じている姿がみられた

クレーンゲームの遊びを支えていたものとは

- | | | |
|-----|---|--|
| 子ども | <ul style="list-style-type: none"> • 目的意識 • 作る面白さ • 増えていくグッズ | <ul style="list-style-type: none"> • 友達 • 考えを出し合う面白さ |
| 保育者 | <ul style="list-style-type: none"> • 時間や場の保証 • 材料の準備 | <ul style="list-style-type: none"> • 情報共有 • 承認 |

良く知っている【つもり】に何度も【出会い直す】

【5歳5月～9月】

「雨、カリカリカリって言ってた」

登園する時に聞こえた雨の音を子どもがこう教えてくれました。

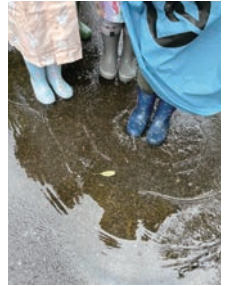
雨はどんな音に聞こえる？

雨の日には、どんなものが見えるか？

雨の日は、いつもとちがう？ おんなじ？

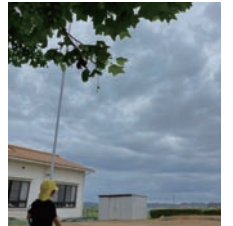
子どもたちと探究したいと思い、“雨の日さんぽ”に出かけることにしました。どんな景色がみえるのだろうか？

はっぱ めれてない
あめ、くさからはえとる
したにみず はいっとる
なんかきもちいいなあ・・・
(雨が強まり・・・)ポタポタきこえてきた
あ！これ“あめのおと”や ポツポツポツ
あめあったかい



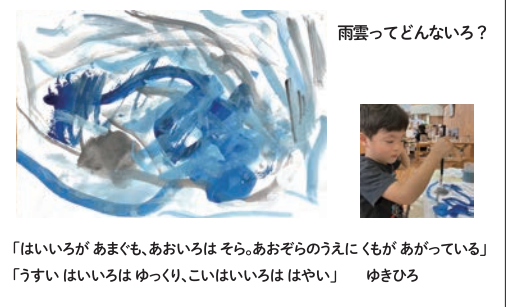
「あめがくろい」「まっくら」 「はいいろのくもなんかこわくなる」

雨が降り始めた薄暗い園庭、地面を見ると楽しい雨。一方で見上げると「こわい」雰囲気醸し出す空。表裏一体の雨と雲、その不思議さに引き込まれるように、子どもたちは雨の行方を追っていました。



「雨の音はどんな音だった？」

ぱつぱつ・・・
ぱっとぱっと・・・
ぱちぱち・・・
ぱちゃんぱちゃん・・・
ぱたぱた・・・
きりきり・・・
ザーザー・・・
がきがき・・・



雨の音のバリエーションも色々でしたが、子どもたちは「雨のカタチ」「雨のいろ」「湿度」「草花や生き物との関係性」など、たくさんのことを発見していました。雨についてもっと知りたいと思い始めているように感じます。雨の日さんぽで、「知っていたはずの世界」が違って見えたかのように対話が広がっていきました。

雨ってどんなカタチ？

4さい

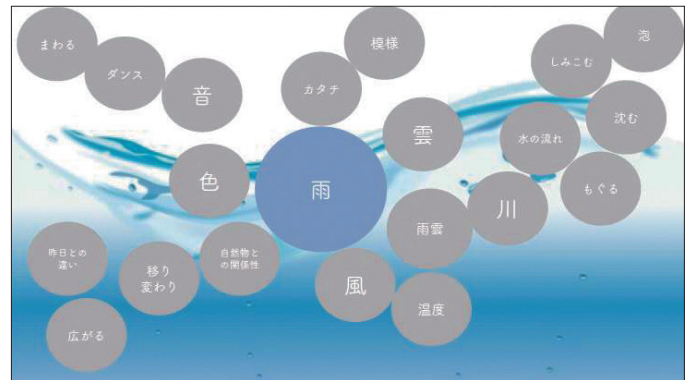
それぞれに感じた雨を知りたい、雨のカタチに焦点を当てて表現してみることにしました。

環境の提案：マテリアルで構築／マテリアルと光／絵の具と紙
少人数：3名～4名 場所：アトリエ
4歳児クラス

あめがたまる

あまつぶ

ふってくる
あめはうえからふってくる



雨から空を想像する

「あめをつくるこうじょうがおそらにある
これはあめをつくるきかい」
「まぜたらあめになる」
「ここからあめがでる」



「雨」の事例からの分析

「雨」は、よく知っている【つもり】だった。「出会い」を新たに持つこと、何度も「出会い直す」ことで、感情を呼び起こし、「なぜ？」「どうなっているの？」「不思議」を新たに歩いている。自分なりに思考するための“100の言葉”を通して考えや感情を表していくと、大人も子ども同士もその子の考えを知ることができる。それを分析・解釈し・解釈し直し、次の探究へと繋げている。

始まりの興味の時限はそれぞれかもしれないが、対話やドキュメンテーションを用いて、考えや感情を共有することで、クラスの中で興味がつながり、広がっていく。

言葉や環境での「問い」を通して、子どもたちは思考し、心や頭をめぐらせ、自分なりの考えや想いを表している。

探究の行き先はわからないけれど、大人もそれを楽しんで子どもと同じ歩幅で歩み、ちょっと先からも見つめて思考をめぐらせている。知っていたつもりの「雨」がもっと身近になり、どんどん不思議さが増して、雨の日や雨上がりが楽しみになることで、世界の見方が変化しているようにも感じる。子どもが切り開いていく「見方」に影響されて、大人も雨への「見方」が変化していつている。

【リサーチ】自分の関心・探究心が、子どもたち(人々)の出会いの入りを広げる

素材を好きになって
人々に紹介したい気持ち

私たちのそばにどんな素材があるのか

興味をもつ
アンテナをはる

いつも身近なことにアンテナをはっていると
そこから次これしてみよう！
発見がある

どこにあるのかな？ 何があるのかな？
興味をもって、探究心をもってみる
それがリサーチのはじまり

家のリサーチ
まちのリサーチ
日本のリサーチ
地球のリサーチ



こども

つまむ
ひっぱる
もちあげる
うごかす
すけたひかりをみる
じゆうにうごかす
おとをならす
みつめる
なく

出会い



おれる
ちゅうにうく
かたちをかえる
かるい
ひろがる
つよい
はりがある
ひかりをとおす
美しいシワをみせる
たわむ
おかしみがある
おとがなる

かみ



継続させていく力：遊びの停滞とアイデア

【5歳5月】泥遊び、水遊びから「日焼けごっこ」が始まった

S児とM児がL字型ブロックにお腹をくっつけて「あったかーい！」

そこで私が「向こうでシート広げるから日焼けする？」と声をかけると「する！する！」といい、「日焼けごっこ」が始まった。



S児「なんか飲み物ほしい気分！」
▶保育者が水をいれた紙コップとストローを出す
▶その後サングラスを出したことで更にイメージが広がり、場が賑やかに

サングラスを掛けて紙コップの水をストローで飲むだけで楽しい、みんなとお揃いが嬉しい

【11月】暖かい日、S児が「先生、また日焼けしたい！」といい、再び「日焼けごっこ」が始まった

W児「傘（パラソル）が必要！」 ▶保育者が傘を出し、一緒に設置する

S児「なんか食べ物も必要じゃない？」 ▶保育者がスタッフになり「いらっしゃいませ！何を召し上がりになりますか？」と聞くと「ハンバーガー！」

保育者がままごとコーナー（キッチン）へ行きハンバーガーのセットを作っていると、見ていた子が「やりたい！」と加わってくる

▶ハンバーガーのセットを作ってお客さんに運ぶという工程を一度示し（見本を見せ）、子どもが同じように作り始めたところでその場から離れ、あとは任せる

ハンバーガーセットをビーチへもっていくと「ケーキセットもお願いします！」と新たな注文が入る

▶保育者が「ケーキセット入りました！」とキッチンにいる子に向かって伝えることで、「はい！」とやり取りが生まれ、ビーチとキッチンの動線がはっきりし、行き来が増える

盛り上がってきたところで、お弁当の時間になった

「今日はビーチで食べよう！」と伝え、ブルーシートを広げると遊んでいた子どもたちは大喜びだった

▶お弁当の時間も遊びの一環とし、遊びを継続する



盛り上がってくると遊びを見る子が出てくる



翌日、登園してくると早速遊びの続きが始まる
しかし、この日は残念ながら雨で寒かったので、自然と室内で遊ぶようになっていった・・・

C児「私ね、池の平ホテルに泊まってみたいの！ここを池の平ホテルにしない？」と言う
しかし周りの子は「なに？それ」と知らない

▶YouTubeでCMを見る（イメージの共有）

すると、「（このビーチに）ホテルつくらない？」とアイデアが出て、「（客室に）お花を飾ろう！」と折り紙で作り始める



キャラクターの部屋があることがわかり、「（キャラクターの）絵を描いて貼ろうよ！」とアイデアが出て、客室作りが盛り上がっていく

「明日はベッドを作ろうね！」となったところで降園時間となった

今回の遊びを通して感じたこと

- 子どもの「こうしたらどうだろう？」を（保育者が手伝いながら）形にしていくことで、子どもの「それなら今度はこうしたらどう？」が生まれていく。思うだけで終わってしまうと、次回も思うだけで終わってしまうかもしれない、思ったことを言える環境が次回へとつながっていく。

- 子どもは遊びの中で「うれしい」を味わうと自信がつき、その経験が次の遊びに活かされていく。

S児：自分が始めた遊びに友達加わってきて、楽しい遊びになってうれしい

C児：S児の遊びに加わり「池の平ホテルにしようよ！」という自分の提案に友達賛同してくれてうれしい

S児・C児・W児：自分の「こうしたい」というアイデアが形になっていってうれしい「実現できてうれしい」が「またやってみようかな」につながり、「友達と一緒にがうれしい」が「また一緒にやらない？」につながっていく。

- 自分のアイデアを周りに伝え、それを友達が認め、遊びに取り入れ、先へ展開していく経験の意味が大きい。今後「遊びがつまらなくなった」と感じた時に「こうしたらどう？」と自分のアイデアを友達に伝え、遊びを再度盛り上げていく、継続させていく力につながる。



子どもと保育者の協働探究過程

【5歳2月】

子どもたちがわくわくする生活を！

門から玄関、靴箱を通りながら、子どもたちは「今日は何をして遊ぶのか」と心をわくわくさせながら、登園してきているのかな？と、登園する姿を見て思いました。
もうすぐ一年生。幼稚園生活もあと少し。
「みんなで楽しいことをしたいね」
先生同士、子ども同士、話し合いを重ねました。

みんなの考えていることって
こういうことかな？

みんなで「さくらすいぞくかん」をつくろう！



くらげののりものチーム



作りたいクラゲののりものは・・・

- 屋根は丸くなっている
- タイヤが付いていて動く
- クラゲの絵が描いてある
- 魚のトンネルの中を走っていく



くらげのトンネルチーム



それぞれのチームで考えていたけれど・・・

あれ？ 似てる？ 同じ？
どうしようか



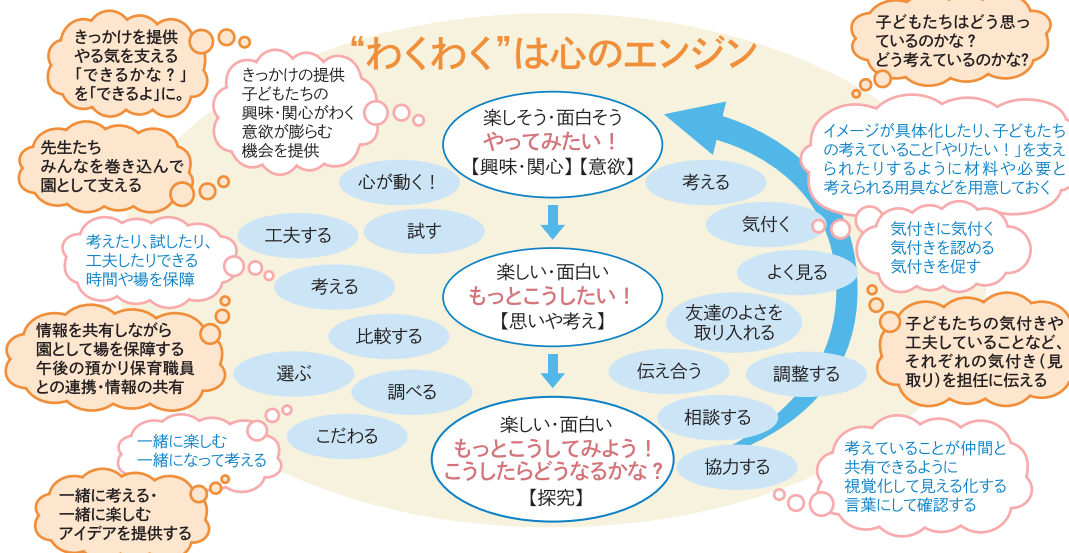
「だってさあ、こっちだってトンネルがいるんだよ」
「これじゃあトンネルが2つできちゃうよ」
「トンネルばかりになっちゃう」
「じゃあ、私たちがトンネル作って、クラゲの乗り物が中を通るっていうのは？」
「じゃあ、2チーム合体ってこと？」
「じゃあ、私たちがトンネルを作ってクラゲの乗り物が中を通るっていうのは？」



どうすれば子どもたちの考えていることが実現していくだろうか？

子どもたちの作りたいイメージは水槽のトンネル、「〇〇が使えるか試してみたらどう？」
「△△と組み合わせるといいかもよ」「こうすればできるんじゃない？」など、園の先生たちも担任と共に考えました。子どもたちが自分で遊んでみて、「こうしたほうがいいのかも」「あったほうがいいのかも」などの気づきが遊びの中に反映されていきます。

遠足の経験も生かせるように・・・
4歳児・5歳児でペアになり、グループで見学しました。事前に保育者間で注目ポイントを確認しました





カメとつばめ幼稚園



このカメは25年ほど前から園で飼育され、修了児や保護者もよく知っている

過去からのつながり

現在も親しまれている



Eさんというと 面白い！

「カメハウス」が壊れてきたので、作り変えることになった。お世話になっている、地域のEさんが材木で新しくしてくださった。Eさんが来ると、いつも面白い道具を見ることができる。本格的なL字型定規や電気ノコギリを扱う様子を子どもたちは興味津々で見ている。「こんな道具を使うんだね、初めて見たよ」



自分たちもカメのために、何かやってみたい気持ちが湧いてくる。地域の身近な人との関わりが子どもの「遊びを学びに誘う」年齢が上がった時に、そういえばあの時「こんな風にやっていたよ!」と自分で考える力につながると期待して…(園長先生)。



春になったら、また会おうね

幼児たちは冬眠の情報を知り、カメの「冬ごもり」を意識した。A児は「冬ごもり」がカメにとって大切なことと感じている。カメのことを心配しているからこそ、継続して取り組むことにつながっている。B児がカレンダーに書き込む姿、そのことを保育者が認める様子を他児もよく見てその行動や状況の意味を共有し、カメの冬眠への活動が学級全体の関心事になっている。

保育者の想い(園のテーマや想い)を、 保護者、子どもとも共有することで、子どもたちもテーマや想いを意識する

わすれないことは、トクベツなこと

子どもたちが園生活をしている中で「忘れちゃう」ということについて、対話が広がりました。忘れないことは、「おたんじょうび」「キャンプの日」「かなしいこと」「どっきりしたこと」など、トクベツなことではないか？そして、忘れない為には「あたまにメモするんだよ」という言葉から“メモ帳”(道具)の探究がはじまりました。



コンビニや100円ショップなど、いろいろなお店のメモ帳を集め、いいところや違いを調べました。



行事のテーマを保護者と共有し、 生まれたロゴマーク



夏に行っている行事“マルシェ”。その行事について、園で考えたテーマ「あつまる」という想いを共有、発信し、そのテーマやテーマカラーからイメージされるロゴマークを保護者の有志の方からいただき、園内に掲示していました。

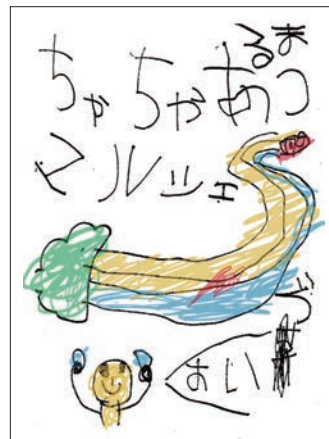
わたしたちのメモ帳も忘れないでほしいから、トクベツなマークをつけたい！

メモ帳の探究は、行事(マルシェ)のためのメモ帳づくりに発展していた子どもたち。ホンモノに近いメモ帳ができあがりつつも、「これ、お店で買ったものみたいで、マルシェで買ったって忘れそう」「コンビニで買ったメモ帳には、コンビニのマークがあったよ！」という気付きから、保護者の作成したロゴマークのように、子どもたちもマークと意味をデザインし、商品に貼ることになりました。



いろいろな カタチが
あつまったら
いろいろな 人が
あつまるとこに
なると思う

トクベツな日にはにじがでる
おい！ あつまれ！ って
呼んでるところ



保護者の方々がデザインしたものと様々に、決められたテーマカラーをつかうために、タブレット端末を用いて色塗り作業を行いました。

子どもも保護者も、園の一日を 一緒に創っている対等な関係性を大切に



左下が子どもたちのつくったメモ帳
ほかの品物も子どもたちが作業しながらつくったもの

メモ帳の探究だけでなく、カタチにも関心をむけていた時期があり、それらが園の行事テーマや保護者が作成してくださったロゴマークといったカタチと想いが重なったことで、子どもたちの表現にデザイン的な視点を含む表現も生まれていった。また、トクベツという目には見えない概念や事柄に対して、メモ帳やロゴマークといった目に見えるものによって具体的に考えられる探究的な過程を過ごすことができていった。

この過程には、子どもも、保護者も園を創る一員である対等な関係性を大切にする価値観や姿勢が重要だったと考える。

子どもは表現者

被写体から表現者へ

【5歳6月】

お花が大好きなYちゃん、園庭に咲くポピーを見つけたことをきっかけにお花探しを楽しむ。「このはっぱ、ちっちゃくてかわいいから写真撮って〜」

保育者が「Yちゃん、自分で撮ってみる？」とカメラを渡すと、近くにいた友達と一緒に次々と花を見つけ、かわいい花を写真に収めることを楽しむ。その輪が少しずつ広がっていく。

お花の図鑑づくり

Yちゃんが見つけた花の写真に興味を持ったSちゃん、図鑑づくりがスタート。「これじゃない??」と一緒に花の図鑑で名前を調べるのも楽しい。見分けがつかない花も多く、園長先生に「このお花知ってますか」と尋ねる場面。

「いろいろ花があるけれど、わからないね」

花の香りに気付いた子どもは、「いいにおいがする」と図鑑に書き込んでいった。



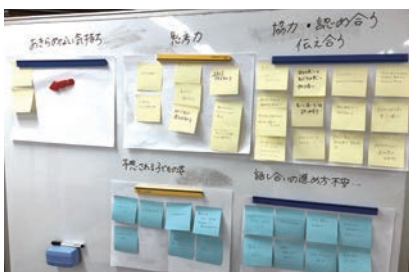
撮影することが楽しくなり、次第に先生や友達を撮影

行事を問い直す

【5歳10月】

コロナもきっかけとなり行事を見直す機会に。以前は講師が6種類の技を教えていた「組体操」から、子どもが3種類を考える「身体表現」に名称を変えた。急激な変化よりも段階的な変化を目指した。最終的には、他園の実践からヒントを得て、身体表現とはまったく異なる「頭と体を使った競技」に取り組むこととなった。

「何をやるか」だけでなく、「何を育てたいか」を改めて問い直す機会となり、子どもにどのような経験をしてほしいのかを職員同士で話し合いを重ねていった。



子どもと共に呼応しながら場と空間を探究するプロセス

【問い】

興味から始まって、主体的な探究に至るまでの間にある保育者の援助について

事例：5歳9～10月

もっとやりたい、知りたい、分きたいなど子どもの疑問が深まっていくプロセスの中で、保育者は**(基本として幼児理解のもとで、子どもと共に呼応しながら何を学んでいるのかを把握しつつ)**どのような援助や環境を構成し、再構成しているのか

【探究を支える保育者の援助： 同時並行的におこなわれている】

環境構成や再構成をデザインする

1. 子どものイメージや、やりたい気持ちを実現する**場**の用意
 - ▶ 保育室内、園舎内で、やりやすい場を考え調整する
 - ▶ 場が新たな子どもを招く「〇〇もやってみたい」
2. 子どものやりたいを保障する**時間**の用意
 - ▶ 興味をもったこと、やりたいことを満足するまで取り組める時間
3. 子どものやりたいを実現する教材の用意
 - ▶ 思いを実現できる**教材・教具**の用意
4. 昨日から今日へ 今日から明日へ日をつなぐ環境の用意
 - ▶ 日を超えて続けられる環境の用意
5. 子どもの心情に寄り添い、意欲を支える保育者へのふるまい
 - 子どもの**挑戦を支えるまなざし**(関心をもって**見守る**)
 - 子どもの思いに**共感する**
 - ▶ 子どもと一緒に保育者自身がわくわくする、面白い、不思議がる、発見に驚く。これから展開していくことに期待感を持つ。
 - 子どものアイデアを**認める**
 - ▶ 「いい考えだね！」「なるほど」「先生もおもいつかなかったよ」「そうか！さすがだね！やってみよう！」など、子どもの思い付きも含めて認め、創意工夫を引き出し、自信をもって考え、解決、探究しようとする力を培う
 - 友達や仲間と**つなぐ**
 - ▶ 友達と一緒に考える、友達の考えを取り入れる。友達の遊びに興味を持つ、一緒に探究する。
 - ▶ 話し合いは、皆の納得が大切、合意形成を得られるまで。
6. 子ども自身が取り組みを振り返るための**可視化**の取り組み
 - その場にいなかった子どもにも共有し協働のきっかけを作る
 - 取り組みのプロセスや足跡がわかるようにする
 - ▶ デジタルで記録したものは、保育室内に掲示する
 - ▶ モニターでクラスの皆と振り返る
 - ▶ 保護者にも共有する
 - ▶ 子ども自身が振り返ることは、「こうするともっと面白そうだ」と新たな発想を生み出すヒントとなる
 - 子ども同士の話し合いを可視化する
 - ▶ プロジェクトの成り立ちの話し合いは、ホワイトボードや静電シートで足跡を記録
 - ▶ 子どもにとっては、自分の役割を見つけることにもつながる

保護者からの感想6万字分をAIが要約

園まつり(造形作品展示)に参加した保護者たちの感想は、子どもたちの作品に対する愛情や成長を強く感じるものでした。多くの保護者が、子どもたちが一生懸命に制作した作品のクオリティの高さに驚き、先生方の指導に感謝の意を表しています。園まつりでは、子どもたちが自分の作品を誇らしげに紹介し、他のクラスの作品にも興味を持って楽しむ姿が見られました。保護者会での事前の説明が、当日の作品鑑賞を深く楽しむ手助けとなり、子どもたちの成長過程を知ること、作品に対する理解が深まったという意見も多くみられました。全体として、園まつりは子どもたちの想像力や協力の大切さを学ぶ貴重な機会であり、保護者たちはその成功を支えた先生方や関係者に感謝の気持ちを伝えています。来年の園まつりへの期待も高まっている様子が見えられました。



このまま気持ちが盛り上がったらかゲにつながるかも…と思い、おみこし作ってみる？と提案

【保育者】
子どもの再現したい思いを受け止め、遊びの提案をする



【保育者】
子どものイメージ、使いたいもの・必要なものを準備する
(段ボール、ガムテープ)



作っては練り歩き、練り歩いては作って、を繰り返す日々

【保育者】
翌日も遊びの続きがしやすいように、お神輿を置く場所、必要になりそうな材料を用意しておく

お神輿に友達が集まり興味関心が高まる
「他にどんなものがあるんだっけ？」「お祭りのお店やりたいな～」「たこやきとか？」「かき氷がいいかも！」

【保育者】
関連する絵本や図鑑などを手にとりやすいようにしながら、子どもたちの会話に耳を傾ける



「あとさ、もっと飾りとかあるんだよ」
「なんか、赤と白で、ひもがあって、金のついてて…」
一生懸命説明するが友達に伝わらない様子やお互い困っている様子に保育者はiPadで「こんな感じ？」と紹介した

【保育者】
イメージしているものを伝え、周りの友達と共有しやすいように援助する

「(チョコバナナを)本物のチョコレートみたいにトロンとさせたい！でも絵具もクレヨンもペンもうまくいかない…」

【保育者】
子どもたちのイメージを大切に新しいやり方を提案、色ボンドと一緒に作る



夜のお祭りを思い出して、光る提灯をつくりたい！
1番きれいに光るのは和紙？セロハン？外張り？内張り？
友達と一緒に試しながら、ほぼ心に決めたやり方があったもののクラスみんなにも相談してみること。

【保育者】
クラスの皆と共有する時間、相談する場の用意

街灯が光らない！職員室に行くと、お泊り保育で使ったミニ懐中電灯がたくさんあると教えてもらい、借りることに。友達、担任、バスの先生、他のクラスの友達、園長…、いいアイデアがないか探究、リソースの広がりへ

【保育者】
色々な場、人へのアクセスを広げていく

園での暮らしの中で、「わたし」との関係を紡いでいくことの意味

園での子どもたちの豊かな育ちの事例を拝見していると、その場は多様でたくさんの関係性にあふれているように思います。

子どもは、外の世界にある物の刺激を受けて、見て聞いて触れて感じて、そして動かして眺めてみたり音を出したりして表現して、やがて新たな外の世界を作り出していきます。子どもは、教示された物を理解しなければならない存在なのではなく、これからの世界を作り出す存在でもあります。

改めて、本リーフレットでご紹介いただいた事例を眺めて見ると、子どもたちが出会った物（環境）は、可塑性が高いものであったり、子どもたちが選択できるような多様性があつたりするなど、その物自体に豊かさがあります。そして、その物とじっくりゆっくりと向き合うことができる状況や時間があります。

このように様々な物に出会うことができる環境、そしてその物の一つひとつが持つ性質や、その物が形成されるまでの物語に触れることができる環境において改めて、「私とは何か」を感じとることもでき、そうして世界と関わり創り出す一人としての「わたしになる」こともできるのではないのでしょうか。



園での探究の振り返りとしての5つの視点のご提案

- ☐ 関係し得る物（素材や道具）を見つめ直す
…子どもたちが出会い触れる物の魅力を見つめ直してみる。単純な物であったか複雑な物であったか、加えて、制限があつたのか、自由であつたのかなどの状況も見つめ直してみる。
- ☐ 物との関係の視点を変える
…人を中心にして物との関係を振り返るだけでなく、物を中心に据えて、その物から見た人との関係を考え直してみる。
- ☐ 問いを書き出す
…子どもたちからどのような問いが生まれていたか。保育者からどのように問いかけたのかを振り返り、書き出してみる。
- ☐ つなぐものの存在の有無
…個々の出会いをつないだものは何であつたか。また、つながっていなかった部分はどこか。つながっていたこと、つながっていなかったことの中で、良かったことを見つけてみる。
- ☐ 探究のモデルとなる人の存在の有無
…例えば保育者がやってみて、失敗をしたり、失敗の結果を踏まえて再度挑戦しようとする等、行動のモデルがあることは、探究活動という不確かな世界に進んでいく活動においては不可欠であり、大きな励みになる。そのような存在があつたかどうかを確認してみる。

(公財) 日本教材文化研究財団 調査研究シリーズ

調査研究シリーズNo.96 『乳幼児期からの深い学びを支える遊びの展開と支援:子どもと保育者の協働探究過程の検討』

本リーフレット、及び今までの報告書等は、(公財)日本教材文化研究財団ホームページの「刊行物」の「調査研究シリーズ」にて公開しています。各種研修等にご活用ください。



中間報告(令和7年11月)

当研究会報告書は、下記のコードよりご覧いただけます。



調査研究シリーズNo.88 『乳幼児期からの深い学びを支える 環境と素材・メディアの分析』要約 版(令和5年5月)



調査研究シリーズNo.88 『乳幼児期からの深い学びを支える 環境と素材・メディアの分析:要約 版中間報告』(令和4年3月)



調査研究シリーズNo.78 『幼児期の深い学びの検討:探究 過程の分析』要約版(令和2年3月)



調査研究シリーズNo.71 『これからの時代求められる資質・ 能力を育成するための幼児教育 指導』要約版(平成30年3月)



研究会メンバー(令和7年11月現在)

秋田喜代美(学習院大学教授)、野口隆子(東京家政大学教授)、宮田まり子(白梅学園大学准教授)
伊藤史子(デザイナー・アトリエリスタ・東京家政大学非常勤講師)、
最上秀樹(学習院大学大学院生・Cha Cha Children Soshigayakoen副園長)、大竹節子(元東京都教職員研修センター研修研究支援専門員)
加藤篤彦(吉祥寺学園園長:武蔵野東学園より校名変更)、河野由紀子(品川区立御殿山幼稚園園長)
亀ヶ谷元謙(亀ヶ谷学園宮前幼稚園・宮前おひさまこども園副園長)、坂井祐史(林間のぞみ幼稚園学務主任教諭)
山岸日登美(まちのこども園ペダゴジカルディレクター)、石井裕美子(品川区立二葉保育園園長)

公益財団法人 日本教材文化研究財団

〒162-0841 東京都新宿区払方町14-1 電話:03-5225-0255 FAX:03-5225-0256 <https://www.jfecr.or.jp/>